



小澤洋介、三戸素子、P ヤング友の会ニュース

2002年1月5日発行 No.32

2002年あけましておめでとうございます。

友の会事務局の今年の上半期コンサート展望インタビュー

今年も盛りだくさんの演奏会を企画している二人に聴きどころなどを聞いてみました。

Q： 新年あけましておめでとうございます。今年も盛りだくさんのコンサートがありそうで期待にワクワクしていますが、まずはその前に、興奮まだ冷めやらぬ、昨年暮れの洋介さんの「シューマンとブラームス」リサイタルについて。あのドイツロマン派の葛藤が凝縮されたかのようなプログラムにはどういう意図が？

小澤：そうですね。僕はここ数年ベートーヴェンの全5曲のソナタに取り組んでいたのですが、ドイツのあの音楽のスタイルがどのように受け継がれていったのか興味が出てきたんです。そしてテーマは深く掘り下げられるようにシューマンとブラームスだけに絞りました。もちろんチェロという楽器のために、ブラームスに全2曲のソナタが、そしてシューマンには二つの個性的な小品集が書かれている、それを包括したかったことあるのですが。

Q： 他ではあまり見ないめずらしいプログラムだと思いましたが、大変だったことは？

小澤：やはりヴァラエティーに富んだ曲を取り混ぜたプログラムと違って、ロマン派の中での構成なので、ロマン派の感性を探る。シューマンは精神を病んで自殺に至るわけですが、その狂気に近づけば近づくほど、その曲の音と音の関係が体に入ってくる。そしてたまにその狂気にすいこまれそうな気になることがある。それに比べるとブラームスは、弾けば弾くほど実直で努力型の作曲家だったのだと実感できる、つまり人間の安定した偉大な精神力と一体になれる感じ、とでも言うのでしょうか。

Q： つまり、精神の面では対極にあるといってもいい二人の作曲家を、ドイツロマン派という大きな流れの中で取り上げ、味わうプログラムだったんですね。さて、いよいよ2002年です。4月に素子さんのリサイタルがありますね。随分久しぶりですよ。

三戸：リサイタルという形では、1997年以来5年ぶりです。

Q： どんなプログラムですか？

三戸：モーツァルトの晩年期のソナタ、シューベルトの晩年期の幻想曲、そしてバルトークのソナタ第1番の三曲です。まずバルトークですが、ハンガリー出身のクリスティーナと共演するようになってこの8年、ハンガリー音楽、特にバルトークを見つめて過ごしてきましたが、この1番のソナタだけが演奏せずに残っているのです。それもこの曲は弾きたくてたまらなかつたソナタです。この曲を弾かないと、私の中のバルトークが完結しないのです。

そしてモーツァルトとシューベルト、この2曲に対する発端は私の留学時代にさかのぼります。当時、音楽院の老教授達がこの2曲に、真の名曲としての敬意を払っていたのです。私は若すぎてこの曲をただただ大きな雲の塊のようなつかみようもないもの感じていました。それから20年、モーツァルトとシューベルトをやってきて、今やっとこの2曲の輪郭や、細胞が見えてきたのです。それで、この2曲をここで演奏したくなったのです。

Q： 素子さんのヴァイオリニストとしての現時点での必然があって、登場する3曲なのですね。4月が楽しみです。それから近々に、そう1月27日にクライネス・コンツェルトハウスのハイドンの弦楽四重奏曲「十字架上の七つの言葉」のコンサートがありますね。

小澤：この曲はヨーロッパに住んでいた頃、何度か演奏する機会があり、ぜひ日本でもやりたいと思っていた曲なので、やっと長年の夢の一つが実現するといった感があります。前奏曲にひきつづき、キリストの十字架上での最後の七つの言葉一つ一つに付けられたゆっくりな曲がクライマックスとなり、後奏に至る。言ってみれば標題音楽の権化のような曲なんです。ものすごい意味のあるテーマをたった弦4本でもって音で表現する。といったものです。

Q： つまり弦楽四重奏でキリスト受難を表現する…。

小澤：そうですね。だけれど、僕たち日本人の日常生活はキリスト教の常識というような基礎知識とあまり縁がない。だから女優の蜷川有紀さんをお迎えして、聖書の朗読を交えて演奏することにしました。ヨーロッパでは教会で、牧師さんが聖書を読んだり説教をしたりして、復活祭前によく演奏されます。

Q： この東京文化会館の公演では、どんな朗読が入るのですか？

三戸：蜷川さんという方は、とても知的な方で発信する言葉をとても大切になさるんです。だから、どんな言葉を読むのか、どうすればハイドンの真髄に言葉を使ってアプローチできるのか、一から取り組んで下さいました。どこかでやっているものを模倣するのではなく、一番ベストだと思われるものを、このクライネス・コンツェルトハウスでやってみたいと思います。

Q： 外に類を見ない独自の公演になりそうですね。楽しみにしています。それから5月はいよいよモーツァルト後期弦楽四重奏曲全10曲の三夜にわたる演奏会ですよ。

三戸：モーツァルト全10曲演奏会はなぜかほとんど行われません。一つ一つが繊細でただ弾けばプログラムになるというものではありません。1998年から2001年にかけて横浜イギリス館でやっていた《モーツァルト》のシリーズの集大成の一つです。これも数年間にわたってこつこつやってきた指標なので、ぜひ実りある新しい演奏にしたいです。

Q：中身の濃い今年上半期のコンサートスケジュールですね。ところでフィリップは？サンクト・フローリアン・トリオはどうなんです？

小澤：だいじょうぶ！2月にロサンゼルスで合宿。4月には恒例の桜の鎌倉での円覚寺の骨髄バンクチャリティコンサートに、ちゃんとフィリップはやって来ます。

Q：よかった！本日はありがとうございました。今年の音楽シーンに期待しています。

サンクト・フローリアンの骨髄バンク・チャリティーコンサートはこうしてはじまった！！

よく会員の皆様から、なぜサンクト・フローリアン三重奏団は骨髄バンクのキャンペーン活動をしているの？という質問を頂きます。事務局も「どうもお友達が白血病になったのがきっかけらしい...」ということ位しか知りませんでした。昨年11月に行われた骨髄バンク・チャリティーコンサートが第10回を迎え、それを記念して「全国骨髄バンク共議会ニュース」に、わがサンクト・フローリアン三重奏団の骨髄バンク活動10年を振り返っての手記が掲載されましたので、ここに紹介します。

早いもので私達サンクト・フローリアン三重奏団が、骨髄バンクのキャンペーンコンサートをするようになって、もう10年になりました。留学先のオーストリアで、音楽仲間のピアニストの金井いづみさんの慢性骨髄性白血病の発病以来、待ち望んでいた骨髄バンクが日本にも出来たというニュースを聞きつけ、連絡をとったのがきっかけでした。あの浅草のアパートの2階で、今は骨髄移植推進財団の職員になられた千葉純子さんとはじめてお話ししたのが、つい昨日のこのようです。

当時、知名度も低かった骨髄バンクのキャンペーンはシンポジウム主体で、それだけでは限界が見えていました。私達はチャリティ(資金集め)とキャンペーン(普及活動)のいずれかのお役に立てればよいと、1992年の11月に東京・千葉・神奈川でコンサートが実現しました。今までコンサートを開催したことなど一度もなかったボランティアの方々には、本当に大変だったと思います。その後、毎年秋に行われるのも定着し、埼玉や福島も加わりました。

多くのボランティアの方々や患者さん達と知りあい、それだけでも骨髄提供者を待ち続ける金井さんと私達にとっては力づけられ、慰めになりました。神奈川では毎年4月、桜の鎌倉・円覚寺でのコンサートという大イベントにまで

発展しました。

金井さんの病状がいよいよ抜き差しならなくなり、1996年は私達にとっても最もキャンペーンに力を入れた年になりました。新潟・山梨・九州各地もまわり呼びかけました。それでも願いかなわずその年の11月、金井さんは台湾から骨髄提供を受けた第1号となりましたが、すでに病状は重く亡くなりました。その後も私達はキャンペーンコンサートを続け、現在に至っています。

福島や千葉の子供病院に演奏に行った時のこと、午後のコンサートを夜と間違えていて開演に1時間も遅れて会場に到着し、皆に迷惑をかけた時のこと、毎年優しい笑顔でコンサートを準備していた今は亡き会員の田中伸幸さんのこと、コンサートで知りあった方々の何組もの嬉しいご結婚等々、素晴らしい思い出は尽きません。

骨髄バンクも11年が経ち、確実に多くの患者さんの希望となっています。知名度も上がり、その活動も少しずつ確実に変化しています。今後私達にどんな貢献が出来るかわかりませんが、これまでこのコンサートに関わって来られた多くの人々に感謝しつつ、骨髄バンクの発展とそして血液疾患の100%の治癒を願って、できる限りお役に立ちたいと思っています。 サンクト・フローリアン三重奏団

今後の主なコンサートとスケジュール



1月27日(日) 東京文化会館室内楽シリーズ

クライネス・コンツェルトハウスOp.12

・ハイドン：弦楽四重奏曲
「十字架上のキリストの七つの言葉」

出演：ヴァイオリン：三戸素子 / 山田耕司 / ヴィオラ：二宮隆行 / チェロ：小澤洋介
ゲスト朗読：蛭川有紀

東京文化会館 小ホール 2pm 開演 ¥4,000

お問合せ：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218
クライネス・コンツェルトハウス事務局 FAX.042-945-6329

2月22日(金) 三戸素子ヴァイオリンリサイタル

三戸素子、クリスティーナ・ヴェーナー inブダペスト

3月24日(日) 日本R.シュトラウス協会例会演奏会

R.シュトラウス：弦楽四重奏曲第1番 Op.1
R.シュトラウス：ピアノ四重奏曲 Op.13

出演：ヴァイオリン：三戸素子、山田耕司 / ヴィオラ：二宮隆行 / チェロ：小澤洋介
ピアノ：ラファエル・ゲラ

4月6日(土) 桜の鎌倉、円覚寺骨髄バンクチャリティ

サンクト・フローリアン三重奏団

出演：ヴァイオリン：三戸素子 / チェロ：小澤洋介 / ピアノ：フィリップ・ヤング
問：神奈川骨髄バンクを考える会 Tel.0462-21-0010

4月14日(日) 三戸素子ヴァイオリンリサイタル

三戸素子、クリスティーナ・ヴェーナー
モーツァルト：ヴァイオリンソナタ A-Dur KV526
シューベルト：幻想曲 八長調
バルトーク：ヴァイオリンソナタ 第1番

東京文化会館 小ホール 2pm 開演

5月12日(日) モーツァルト後期弦楽四重奏曲連続演奏会

第1回 ハイドンセット I III 2p 開演 オペラシティリサイタルホール
第2回 ハイドンセット IV VI 6p 開演 オペラシティリサイタルホール

5月20日(月) モーツァルト後期弦楽四重奏曲連続演奏会

第3回 プロイセン王 I III 6p 開演 東京文化会館小ホール
一回券：¥5,000 二回券：¥9,000 三回券：¥12,000

会場が違いますのでご注意ください。